

神奈川県立がんセンター 婦人科 レジデント研修評価表 (1年次)

レジデント		期 (氏名)			2022.3 ver.2 レジデントは太枠内を記入	
指導医						
研修期間		年 月 日 ~ 年 月 日				
がん専門医研修における婦人科医としての下記の研修目標について、年次ごとに自己評価をするとともに、指導医による評価も受け、次段階への進行を許可する。						
[研修評価：1年次]		A:修得した B:ほぼ修得した O:目標に達しない				
大項目	研修内容	自己評価	実施または術者	見学または助手	指導医評価	
1	各臓器の病態生理と悪性腫瘍の理解	A・B・C	/		A・B・C	
		2) 頸がん、体がん、卵巣がんの主な組織型の押解			A・B・C	A・B・C
2	疾患の知識と治療方針の決定	1) 頸がん、体がん、卵巣がんの手術治療の計画ができる			A・B・C・症例なし	A・B・C
		2) 病歴聴取、家族関係、告知、精神的ケアの経験			A・B・C・症例なし	A・B・C
		3) 放射線治療法の適応、線質の選択、副障害の対策			A・B・C・症例なし	A・B・C
3	患者管理と検査・処置	1) 内診、コルポスコープ、細胞診採取法、生検法、膀胱鏡、子宮頸部円錐切除法 超音波			A・B・C・症例なし	件
		2) 放射線 (単純、造影、CT、MRI、PET) 読影	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
		3) 腹腔穿刺、胸腔穿刺、子宮止血法 リンパ節生検法	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
4	手術手技あるいは化学療法レジメンと副作用への対処	1) 指導医のもとでレーザー子宮頸部円錐切除術、単純子宮全摘術、準広汎子宮全摘術、骨盤リンパ節廓清、大網切除術が行える	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
		2) 化学療法剤の効果・副作用の理解	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
		3) プラチナ製剤およびタキサン系製剤の使用法の押解と習熟	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
		4) 正しい麻薬の投与法、ブロック等の理論の理解	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
5	学会活動	1) 地方学会発表1回	A・B・C	件	件	A・B・C
		2) 全国学会発表2回	A・B・C	件	件	A・B・C
レジデント自由記載欄：						
評価：		年 月 日	判定： 優 ・ 良 ・ 可 ・ 不可			
特記事項：						

提出方法: レジデントは研修期間終了時に自己評価を記入して指導医に提出し、指導医は指導医評価を記入後1ヵ月以内に総務企画課に提出すること。

神奈川県立がんセンター 婦人科 レジデント研修評価表 (2年次)

レジデント	期 (氏名)	2022.3 ver. 2
指導医		レジデントは太 枠内を記入
研修期間	年 月 日～ 年 月	

がん専門医研修における婦人科医としての下記の研修目標について、年次ごとに自己評価をするとともに、指導医による評価も受け、次段階への進行を許可する。

[研修評価:2年次]		A:修得した B:ほぼ修得した O:目標に達しない			
大項目	研修内容	自己評価	実施 または術者	見学 または助手	指導医評価
1	各臓器の病態生理と悪性腫瘍の理解	A・B・C	/	/	A・B・C
	2) 外陰がん、腔がん、卵管がんの期別分類の理解	A・B・C			A・B・C
2	1) 頰がん、体がん、卵巣がんの再発治療の計画ができる	A・B・C・症例なし			A・B・C
	2) 緩和ケアの理解	A・B・C・症例なし			A・B・C
	3) 難治性疼痛の対策を講ずる	A・B・C・症例なし			A・B・C
3	1) 細胞診断、病理診断を修得	A・B・C・症例なし			件
	2) 泌尿器および骨盤外科領域手術の見学	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
4	1) 広汎子宮全摘、傍大動脈リンパ節廓清、外陰切除術の確立	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
	2) 稀少がん腫、難治例に対する化学療法の経験	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
	3) 腔内照射法の修得	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
5	1) 全国学会発表2回	A・B・C	件	件	A・B・C
	2) 原著論文1編	A・B・C	件	件	A・B・C

レジデント自由記載欄：

評価： 年 月 日 判定： 優 ・ 良 ・ 可 ・ 不可

指導医記載欄：

提出方法: レジデントは研修期間終了時に自己評価を記入して指導医に提出し、指導医は指導医評価を記入後1ヵ月以内に総務企画課に提出すること。

神奈川県立がんセンター 婦人科 レジデント研修評価表(2年次)

レジデント	期 (氏名)	2022.3 ver.2 レジデントは太 枠内を記入
指導医		
研修期間	年 月 日～ 年 月	

がん専門医研修における婦人科医としての下記の研修目標について、2年次の自己評価をするとともに、指導医による評価も受ける。

[研修評価:2年次]		A:修得した B:ほぼ修得した C:目標に達しない					
大項目	研修内容	自己評価	実施または術者	見学または助手	指導医評価		
1	各臓器の病態生理と悪性腫瘍の理解	1) 稀少組織型の理解 A・B・C	/	/	A・B・C		
		2) 転移性腫瘍の理解 A・B・C			A・B・C		
2	疾患の知識と治療方針の決定	1) 頸がん、体がん、卵巣がんの再発治療の計画ができる A・B・C・症例なし			A・B・C		
		2) カウンセリングの理解 A・B・C・症例なし			A・B・C		
		3) 在宅緩和ケアの立案 A・B・C・症例なし			A・B・C		
3	患者管理と検査・処置	1) 細胞診専門医取得への準備 A・B・C・症例なし			A・B・C		
		2) 婦人科腫瘍専門医取得への準備 A・B・C・症例なし			A・B・C		
		3) 画像診断の確立 A・B・C・症例なし			A・B・C		
4	手術手技あるいは化学療法レジメン及び放射線治療と副作用への対処	1) 広汎子宮全摘、傍大動脈リンパ節廓清の安全・迅速な執刀 A・B・C・症例なし			件	件	A・B・C
		2) 腹腔鏡手術への施術参加 A・B・C・症例なし			件	件	A・B・C
		3) 化学療法の難治性・高度有害事象の対応 A・B・C・症例なし			件	件	A・B・C
		4) 放射線治療の管理 A・B・C・症例なし			件	件	A・B・C
5	学会活動	1) 全国学会発表2回（ワークショップ等に応募する） A・B・C	件	件	A・B・C		
		2) 原著論文1編 A・B・C	件	件	A・B・C		

レジデント自由記載欄：(欄不足の場合は裏面へ)

評価： 年 月 日	判定： 優 ・ 良 ・ 可 ・ 不可
-----------	--------------------

特記事項：

提出方法: レジデントは研修期間終了時に自己評価を記入して指導医に提出し、指導医は指導医評価を記入後1か月以内に総務企画課に提出すること。